「離島実習を通して」

今回は、沖永良部島の大蔵医院とフローラルホーム花の家という老人介護施設で実習を行わせていただいた。昨年は奄美で実習を行ったが、フェリーで行くのにかかる時間であったり島の風景であったり、同じ南の離島でも違いはいろいろなところに見られるということを感じた。

大蔵医院は、院長の英世先生とその息子の聡さんの二代で診ている診療所である。沖永良部島には、現在では徳洲会病院という大きな病院ができたために、大蔵医院の患者さんの数は多くはないものの、徳洲会病院がなかったときには 1 日に 100 人ほどの患者さんを診ており、過労で倒れそうになったという話を聞いた。また、先生方の負担が減った大蔵医院では、院長が年齢のことを考えて 10 年前から患者さんの引継ぎを聡先生に行っていたため、今ではほとんどの患者さんを聡先生が診ているという現状であった。設備としては、内視鏡やレーザー、CT などがあり、自分が思っていたよりは充実しているという印象を受けた。先生方の患者さんへの対応は、やはり島ならではのものではないかと感じた。それは、患者さん一人ひとりの健康のことはもちろん、その人の家族構成や暮らしなども把握していることがわかる会話が多く見られたからである。島民の数は 1 万 4000 人ほどであり、全員が大蔵医院に診療してもらうわけではないが、これらの人々を把握することは簡単なことではないと思う。先生方が苦労している分、患者さんも先生に心を開いているのではないかと思った。

一方で、老人介護施設である花の家では、数名の介護士で多くの高齢の方のお世話をしていた。介護士の方が親身になって話を聞いたり、また一緒に遊んで盛り上げたりしており、そこに居住している方たちもとても楽しそうにしているのが印象的だった。実際に自分たちも一緒に歌を歌ったり遊んだりする中で、居住している方とのコミュニケーションをうまく取ることができたと思う。

今年離島実習に行ってみて去年と違う点は、一度違う島での実習を行っている点だった。違う島の違う診療所でどのように診療しているのか、また患者さんとどのようにコミュニケーションを取ってその方々の背景を掴んでいるか、ということを学ぶことができ、2 年生といえどもまだ医学的知識がほとんどないが、授業などでは学ぶことのできない、将来働いていくうえで大切なことを実際に見ることができたことを嬉しく思う。来年は離島実習はないが、この実習を通して学べたことを次のステップに持っていけるようにしたいと思う。

〇俳句　「先生の　豊富な知識　元気のもと」

花の家と大蔵医院に通っている人に話を聞く機会があり、そこで大蔵先生と話すだけで病気が治って元気になるんだよという話を聞いた。先生が診療しているとき、その患者さんやそのご家族のことについて話しているのを見て、先生が患者さんやその背景を把握しているからこそ患者さんもそこまで言ってくれているのだと思った。

離島実習レポート

今回は、沖永良部の大蔵医院で実習させていただきました。沖永良部に訪れたのは今回の離島実習が初めてでした。船で約１７時間半もかかり体力的精神的にきつい船旅でしたが、いざ沖永良部に到着した途端、疲れが一気に吹っ飛ぶぐらい綺麗な海を見て圧巻されました。到着後は、大蔵医院にご挨拶に伺ったのち、院長先生に沖永良部の観光スポットである田皆岬等に連れて行ってもらいました。透き通った海と断崖絶壁から望める景色は、なんとも言えないぐらい素晴らしい景色でした。

２日目は、院長先生が経営していらっしゃるフローラルホーム花の家で実習を行いました。みなさん平均９５歳の方ばかりでしたが、本当に元気でいらっしゃって驚きました。利用者同士の会話の中では沖永良部の方言で会話が行われていて、全く理解ができず異国の言葉のように感じられました。島に住み働く上では島の言葉、方言を理解していくことが重要であると思いました。利用者の一人である泉ヤエさんから、沖永良部島が生まれた伝説の話と第二次世界大戦で経験した話をしてもらいました。中でも戦時中の話は、なかなか経験できる話でないので、とても貴重な体験をさせてもらいました。利用者の方々は、個性豊かな方ばかりで１日の実習が終わるのがあっという間でした。

３日目は、大蔵医院のほうで外来の見学をさせていただきました。私は、副院長先生の側で見学させていただきました。副院長先生は、患者さんと明るくフレンドリーに接していて、患者さんの中では、受付で薬をもらいにくるだけでよかったのにもかかわらず、「先生の顔見たら元気になれるから」とおっしゃって外来に訪れている方もいらっしゃいました。副院長先生との会話では、「島のことなら院長先生には勝てない」というのが印象的でした。副院長先生は、島という狭いコミュニティの中では、患者さんのことだけではなく家族、親戚などの人間関係を知っていることが、診察の中で生きてくるとおっしゃっていて、私自身そういう風な考えを持っていなかったためとても衝撃的でした。

４日目は、実習もなく「沖永良部の土地を知ろう！」という目的で、沖永良部の観光地を巡りました。暗川(クラゴー)、ガジュマルの木、フーチャ海岸、沖泊海水浴場等に行きました。どこもかしかも素晴らしい景色ばかりで沖永良部の素晴らしい自然が大好きになりました。

４日間の実習を通して、鹿児島大学の地域枠との交流、離島医療に触れ、島の魅力を知ることができて、非常に充実した離島実習をすることができてよかったです。ここで得た経験を生かして今後の勉強や将来の医師像に関する意欲を高めていきたいと思います。最後にこのような貴重な体験をさせていただいた方々に感謝を申し上げます。

夏の空　医師の熱さに「みへでぃろ」と

［意味］

「みへでぃろ」は沖永良部の方言で「ありがとう」の意味を持ち、そこで働く先生たちが熱い気持ちで僕らに向き合ってくれたことと沖永良部の素晴らしい自然に感謝の意を込めこの句を詠みました。

離島実習レポート

今回は、沖永良部の大蔵医院で実習させていただきました。沖永良部に訪れたのは今回の離島実習が初めてでした。船で約１７時間半もかかり体力的精神的にきつい船旅でしたが、いざ沖永良部に到着した途端、疲れが一気に吹っ飛ぶぐらい綺麗な海を見て圧巻されました。到着後は、大蔵医院にご挨拶に伺ったのち、院長先生に沖永良部の観光スポットである田皆岬等に連れて行ってもらいました。透き通った海と断崖絶壁から望める景色は、なんとも言えないぐらい素晴らしい景色でした。

２日目は、院長先生が経営していらっしゃるフローラルホーム花の家で実習を行いました。みなさん平均９５歳の方ばかりでしたが、本当に元気でいらっしゃって驚きました。利用者同士の会話の中では沖永良部の方言で会話が行われていて、全く理解ができず異国の言葉のように感じられました。島に住み働く上では島の言葉、方言を理解していくことが重要であると思いました。利用者の一人である泉ヤエさんから、沖永良部島が生まれた伝説の話と第二次世界大戦で経験した話をしてもらいました。中でも戦時中の話は、なかなか経験できる話でないので、とても貴重な体験をさせてもらいました。利用者の方々は、個性豊かな方ばかりで１日の実習が終わるのがあっという間でした。

３日目は、大蔵医院のほうで外来の見学をさせていただきました。私は、副院長先生の側で見学させていただきました。副院長先生は、患者さんと明るくフレンドリーに接していて、患者さんの中では、受付で薬をもらいにくるだけでよかったのにもかかわらず、「先生の顔見たら元気になれるから」とおっしゃって外来に訪れている方もいらっしゃいました。副院長先生との会話では、「島のことなら院長先生には勝てない」というのが印象的でした。副院長先生は、島という狭いコミュニティの中では、患者さんのことだけではなく家族、親戚などの人間関係を知っていることが、診察の中で生きてくるとおっしゃっていて、私自身そういう風な考えを持っていなかったためとても衝撃的でした。

４日目は、実習もなく「沖永良部の土地を知ろう！」という目的で、沖永良部の観光地を巡りました。暗川(クラゴー)、ガジュマルの木、フーチャ海岸、沖泊海水浴場等に行きました。どこもかしかも素晴らしい景色ばかりで沖永良部の素晴らしい自然が大好きになりました。

４日間の実習を通して、鹿児島大学の地域枠との交流、離島医療に触れ、島の魅力を知ることができて、非常に充実した離島実習をすることができてよかったです。ここで得た経験を生かして今後の勉強や将来の医師像に関する意欲を高めていきたいと思います。最後にこのような貴重な体験をさせていただいた方々に感謝を申し上げます。

夏の空　医師の熱さに「みへでぃろ」と

［意味］

「みへでぃろ」は沖永良部の方言で「ありがとう」の意味を持ち、そこで働く先生たちが熱い気持ちで僕らに向き合ってくれたことと沖永良部の素晴らしい自然に感謝の意を込めこの句を詠みました。